

「聞くには早く」 ヤコブ1：19 堀田修一 21・2・14

「私の愛する兄弟たち。このことをわきまえていなさい。人はだれでも、聞くのに早く、語るのに遅く、怒るのに遅くありなさい」。

I 「聞くのに早く」→この御言葉は、うわさ話等を、耳を大きくして、早く喜んで聞く事を意味しない。これは、①主のみことばを良く聞く事。「信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです」ローマ10：17。健全な信仰が養われる為に、聖書のみことばを心を開いて聞き続けよう。※人と交わる前に、神と交わる、神に聞く。②真実な忠告に耳を傾けること（「愚か者は自分の道を正しいと思う。しかし、知恵のある者は忠告を聞き入れる」箴12：15、「忠告を聞き、訓戒を受け入れよ。そうすれば、あなたはあとで知恵を得よう」19：20）。③他の人の悩みを良く聞き、相手の言葉だけではなく、辛い気持ちに寄り添う事である。④主のみことばにじっくり耳を傾けることは、最も主の心をお喜ばせる。「彼女にはマリヤという妹がいたが、主の足もとにすわって、みことばに聞き入っていた」ルカ10：39。私達も、毎朝、また毎週の礼拝で主のみことばに聞き入る者となれますように。⑤愛のある忠告に耳を傾けることが出来ますように。⑥また、他の人の話をよく聴き、寄り添う事は、その人への最高の愛の一つである。よく聞き耳を傾け寄り添う人の存在は、悩む人にとり、大きな慰めである。悩みを愛をもって聴く事は、相手の人格を受け入れる事。「キリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに受け入れなさい」（ローマ15：7）。主は私達を i ます受け入れて下さり、ii 変えて下さる。人は、まず受け入れられて、愛され、変えられて行く。※証し。祈りつつ聴く。神は、相手を支える愛として用いられる。気持ちの理解への感謝。心で祈りつつ辛さに共感し、「それはつらいですね」「とっても悲しいですね」と寄り添う愛。

II 「語るにはおそく」→罪人である私たちの世界には、聞く耳が不足し、語る口が多過ぎる。神は、私達に、二つの耳を与え、口は一つ与えておられる（出4：11、箴20：12）。一つ語るためには、その前に二倍聞く心構えが必要。「自分の口を見張る者は、たましいを守る。唇を大きく開く者には滅びが来る」（箴13：3）。語るのに遅くとは、みことばを良く聞く前に、また人の話をよく聞く前に、自分で早くしゃべりまくらない事。どの教会でも、主の御前に静まる前に、自分勝手な意見を語り、譲らない時、みことばに示された御心は、押しやられる。みことばを取り違えて、自分勝手に語ることもある。また、他人のうわさ話や悪口、陰口を言ったり、そのような話題に乗ったりするわなから守られるように祈りたい。「人を中傷して回る者は、秘密を漏らす、霊が忠実な人は事を秘める」箴言11：13。「軽率に話して人を剣で刺すような者がいる。しかし、知恵のある人の舌は人を癒やす」12：18。「陰口をたたく者は親しい友を離れさせる」16：28。「主よ。私の口に見張りを置き、私の唇の戸を守ってください。私の心を悪に向けさせず、不法を行う者たちとともに、悪い行いに携わらないようにしてください」詩141：3、4。

III 正しい聞き方。

1. 人と交わる、相談に乗る時、その前に、自分自身が主の前に静まり、心と、聞く耳と、語る口を聖め整えていただく。
2. 聞く前に、がんがん語るのではなく、静かに相手の声に耳を傾ける。沈黙を恐れない。慰め主なる聖霊様がそこに働かれる。
3. 何とか励まさなければと、あせって語るのではなく、悩んでいる人に寄り添う、耳を傾ける。インマヌエルの主は、悩んでいる人と聞く私達に寄り添って下さる方、耳を傾けて下さる方。

4. 悲しみ、苦しむ人の言葉、響き、間、声の調子、沈黙、顔の表情、体の動き、姿勢、距離、息遣い、汗等には、①言葉としての内容と②感情、気持ち、意味があることをわきまえつつ聞く。
5. 人は、気持ちを受け止めて欲しい、理解して欲しいと願っている。語られる言葉の内容には、理解できないこと、同意できないことがある。神の下さる真の愛、思いやりは、相手の言う事にすべて同意することではない。語られることにすべて同意し、一体化、同化（語る人と聞く人との間に主がおられるスペースがなくなる。神が与えておられる健全な境界線、人格の区別がなくなる。健全な自分がなくなり相手と同じになる。健全な判断力、識別力がなくなる）するなら、相手を正しく助けることはできない。真の事実は、わからないのに、一緒に怒り、ある人を一緒に憎むようになるなら、その聞き方は、真の益とはならない。
6. 聞く時、安易な同意、同化、勝手な判断、勝手な評価、人間的同情（上から目線で相手を弱者と見る）を控えるように祈りたい。
7. すべての同意ではなく、つらい気持ちを受け止める聞き方が大切。大切な共感（共にいて相手の気持ちを受け止めてあげる）と同意は違う。主イエスは、私たちが間違っただけを祈りをする時、同意はされなくても、聞いて下さり、つらい気持ちを、私たち自身を受け止めて下さる。そして徐々に間違いにも気づかせ、真実に近づけて下さる。
8. 上に立って相手を見下げる同情ではなく、相手の所、立場に降りて、相手を理解（understand）しようとする聞き方。それが愛である。イエス様は最高に高い天から降りて、私達より低い、最も低い十字架にまで降りくだり、私たちの罪のために死に、復活し、今は天に、そして私たちと共におられる神、救い主、最高の理解者。
9. 私たちは、神ではないので、相手の事を完全に理解することはできないことを謙遜にわきまえつつ聞く。しかし、傍らに居ること、共に泣くこと、耳を傾けることが愛。
10. 交わりの中で、相手が正直に自分の悲しみ、つらさ、嘆きを分かち合ってくれた時、静かに耳を傾けることをせず、すぐに口を開き「こうしたらいい、ああしたらいい、もっと頑張りなさい」と言うなら、打ち明けた人は、かえってみじめになり心を閉ざすだろう。悲しみ、つらさ、弱さを打ち明けても、思いやりを持って耳を傾けてくれる交わりは、幸い。
11. 秘密を守る。他の人に言いふらさない。自分の口が守られるように祈りたい。「私のくちびるの戸を守ってください」詩141：3。※例外：ある人が自殺する可能性がある時、信頼出来る人の助けを求める。愛と識別力を祈り求めましょう。

Ⅳ 他人の痛みを聞いて寄り添う人、助ける側の人は、自分も、自分の重荷を話し、聞いてもらうことができる交わりを必要としている。父、子、聖霊なる神は互いに愛し合い交わっておられる神である。その神に似せられて造られた私たち人間は、互いに語り合い互いに聞き合う交わりの中で生き、成長するように造られている。「さあ人を造ろう。われわれのかたちとして、われわれに似せて」創1：26。すべてをご存知の神の前に静まり憩いを得たい。「主は…いこいの水のほとりに伴われます」詩23：2。また神が備えられた人々との交わりも大切にしたい。主にあって互いに支え合えますように。

Ⅴ 「語るのに遅く」とは、語ってはならないと言う意味ではなく、①まず、急いで語るのではなく、良く耳を傾けて、相手の気持ちを受け止め、関係作りをし、祈りつつ、必要な事を語る事です。また、心におられる御聖霊の助けをいただいて助言をしましょう。但し、相手を支配する助言の仕方ではなく、相手の人が、帰られたら、神に祈られて、自分で決断できるように、別れた後も祈り続けましょう。

まず、主の御言葉を聞き、心が整えられ、人の悩みを聞き寄り添い、その後で、御聖霊に頼り、必要な事を語る事が出来ますように。「悪いことばを、いっさい口から出してはいけません。むしろ、必要なときに、人の成長に役立つことばを語り、聞く人に恵みを与えなさい」エペソ4：29